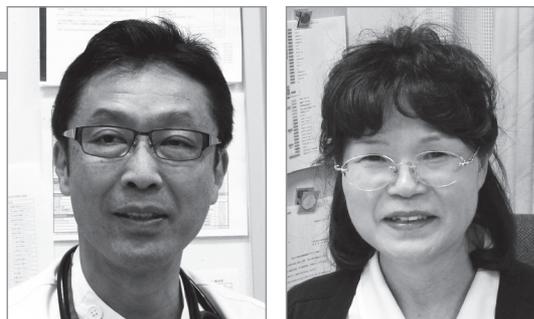


エディトリアル

公益社団法人地域医療振興協会 常務理事
西吾妻福祉病院 管理者 折茂賢一郎

公益社団法人地域医療振興協会
地域看護研究センター 副センター長
大野たみ子



へき地・離島の過疎・高齢化のみならず、都心ですら団塊世代の高齢化により集合団地そのものが80%を超える高齢化になっていることなども浮き彫りになり、日本全国が“斑(まだら)高齢地域”化となっている。超高齢社会は、生産労働人口が相対的に減ることになり、国力(社会全体の生産性など)の低下につながり、“持続可能な社会の維持”には暗い影を投げかける。しかし、

果たしてこの考え方は正しいのだろうか。見方を変えてみれば、“高齢者が生き活きと過ごせる社会”を構築することさえできれば、わが国は世界に類を見ない“桃源郷”が実現できるのかもしれない。社会保障制度の構築にはさまざまな課題があり、一筋縄には解決できないものではある。“地域で生き甲斐を全うし、自己の尊厳を大切にするため”には多職種が協働して活動することが重要とされている。本号では、地域というフィールド内での“看護の力”に着目してさまざまな視点から論じてもらう。

図1は、地域包括ケアシステムについて厚生労働省が発表している有名なものだが、皆さんはどのように感じるだろうか。オリンピックの五輪のように、介護と医療、予防、住まい、生活支援が互いに絡み合いながら30分以内の生活圏域で支え合う…というポンチ絵である。なんとなく納得がいくような“感じ”はするが、皆さんがもしも半身麻痺や認知症を抱えて介護等の支援を受けることになったとき、この図のようなものだけで満足がいくであろうか。直接的な支援とすれば、この五輪のようなものでいいのかもしれないが、“人”が生きていくためには楽しみとか生き甲斐というものが大切である。自己実現の重要なポイントが抜けていると思わないだろうか。アメリカ合衆国の心理学者であるアブラハム・マズローは、「人間は自己実現に向かって絶

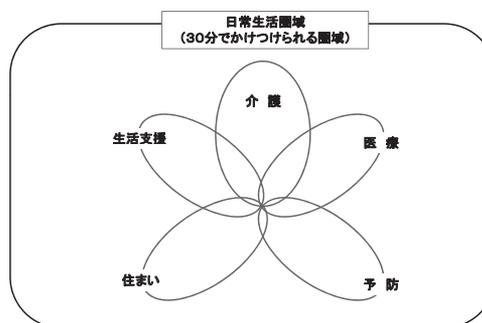


図1 地域包括ケアシステムについて

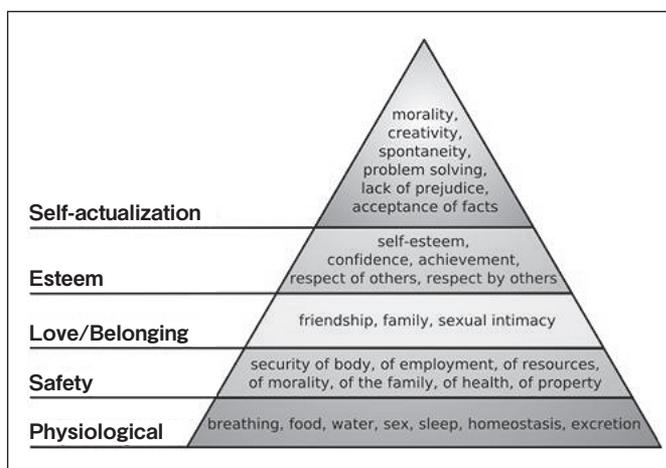


図2 マズローの欲求段階説

えず成長する生きものである」と仮定した。人間の欲求を5段階の階層で理論化したものとして有名である。図2をご覧いただきたい。

つまり、5つの輪を取り囲む大きな楕円形の輪のところに、“人生”とか“生き甲斐”とか“自己実現”とかの文言が必要だと思っている。

さて、ICFをご存知だろうか。これは、2001年にWHO(世界保

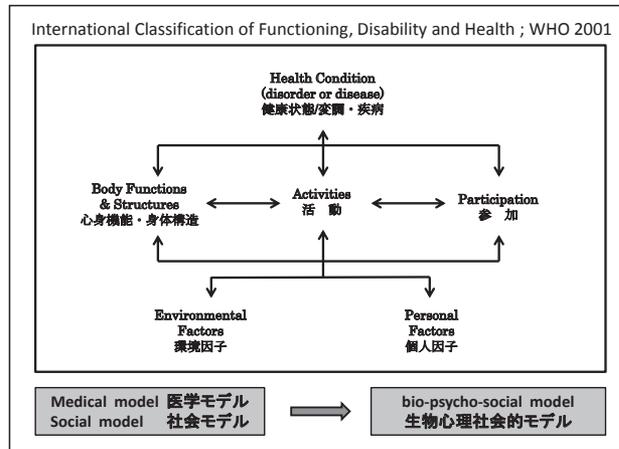


図3 国際生活機能分類(ICF)の概念

健機関)が提唱した、国際生活機能分類(International Classification of Functioning, Disability and Health)の略称だが、障害を個人の概念でとらえるだけではなく、環境の要素も加味しようという考え方である。代表的なものが図3だ。“心身機能・身体構造”とは、いわゆる救命救急医療のようなものに近く、“医療モデル”とも称される。しかし、この機能障害だけを克服すればいいのではない。“活動”の視点が必要なのは言うまでもない。でも、これだけでも不十分で、“参加”の概念、つまり“生き甲斐や人生のあり方”を問う必要があるというものである。“生活モデル”として“生物心理社会的モデル”のような幅広い概念でとらえることの大切さを表しているものと理解していただきたい。

現在、このICFは介護支援にかかわる世界では共通言語として位置付けられつつある。ケアマネジメントの根幹にかかわる精神を表しているとも言い換えられる。ところが、実地の医療の現場では、とかく“救命救急”や“重症緊急疾患”に目が向けられがちであり、“生活を支える視点での医療”の意識が乏しくなりがちである。このように考えたとき、5つの輪の位置関係も変わってきてほしいと思う。医療の輪が一番底辺に薄く、しかし力強く書かれるべきではないだろうか(図4)。その“医療の下支え”という安心感の上に、住まいも予防も介護も生活支援も存在すると…。

さて、“多職種協働”という言葉が昨今では氾濫している。しかし、“きょうどう”という言葉が皆さんは小学校の国語でどのように習っただろうか。普通、「共同」とか「協同」と習ったはずである。「共同便所」「共同風呂」「協同組合」というような使い方であるが、今でも辞書によっては「協働」という漢字は載っていないものもある。この意味合いは「力を合わせて同じ目的の実現のために働く」こととされており、あくまでもさまざまな専門職がプロフェッショナルとして対象となる利用者・患者の自己実現に向けて働くことと理解しなくてはならない。世界に類のない早さで超高齢社会に突入しているわが国に

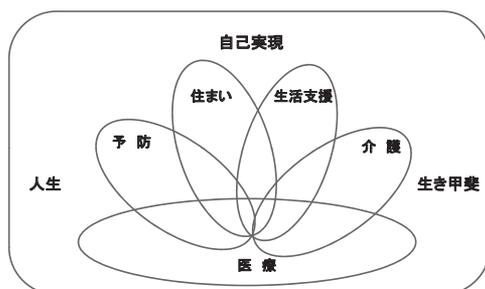


図4 地域包括ケアシステム

において、とても大切な視点であるが、掛け声ばかりでは駄目ではないだろうか。本号では、看護師という専門職がどのように障害者を、高齢者を、患者を、地域を支えていくのかを、それぞれの立場から考える企画とした。ぜひともじっくりとお読みいただければと思う。